



東北学院大学 チャペル ニュース

サマー・カレッジ、
秋季特別伝道礼拝
特集号

第102号 2007年10月
東北学院大学宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

● 巻頭言 ●

「恐れる・畏れる」

宗教部長 佐々木 哲 夫

主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも論しをも侮る。

(箴言 一章七節)

皆さんは、「恐れ」という感情を持った経験があると思います。恐れには、二つの意味があります。一つは、怖がるという意味です。例えば、暗闇やお化け、妙な動きをする気持ち悪い虫などに対して感じる感情です。もう一つは、従属したいと思うほどに圧倒される素晴らしい感情としての恐れです。例えば、畏れと

いう漢字を当てはめて表現する場合の恐れです。英語で表現するならば、前者は「fear」、後者は「respect」となります。ここでは後者の恐れについて考えたいと思います。さて、恐れる対象として、威厳ある先生や師匠や先輩などが挙げられます。スポーツなどでしばしば体験する恐れでもあります。怖いという感情と同時に、知識や技術を教えてもらうことによって自分を今より高めてくれるという期待や尊敬が込められての感情です。いわゆる「畏敬の念」と表現されるこの感情は、通

常、動物や物を対象にしては持ち得ないものです。ところで、聖書の伝える神は、私たちにあって、畏敬すべき方です。なぜなら、神は、私たちの知恵の出発点だからです。知恵とは、巧み、有能

経験、洞察など、人間の能力を総合的に表現している言葉です。具体的には、造船、建築、農業、工作などの分野における実際の知識や技能のことを意味しています。そのような知恵は、実に、主を畏れることから出発するということです。主を畏れなくても、自分の力や経験によって、知恵や知識を十分に獲得することができると考える方もいるかと思えます。そのように考える方のために、箴言は、二行目に否定的表現で「無知な者は知恵をも論しをも侮る」と念を押しています。一行目

と二行目は、平行法による表現になっており、それぞれの要素が反義的に対応しています。例えば、「無知な者」とは「主を畏れることのない者」のことで、「知恵や論しを侮る者」とは、「知恵を初めとしていない者」のことです。ところで、東北学院の先達は、聖書の言葉を学舎の礎にしました。この箴言の言葉も礎の一角に据えられました。例えば、土樋キャンパス中央図書館の入口に、文語訳聖書の「エホバを畏るるは知識の本なり」が掲げられているとおります。

今日の私たちも先達とともに「主を畏れることは知恵の初め」の言葉を心に刻みたいと思います。

「神がお創りになったもの」



仙台白百合女子大学 人間学部

総合福祉学科教授

大坂

純

私が理事長を勤めているありのまま舎には、筋ジストロフィーを中心とする神経難病の患者さん達が約七〇名生活をしています。現在でも多くの神経難病の患者さん達は、白い壁に囲まれた病院の中で一生を終えています。

療養所では一九六〇年以前まで、様々な規則や医師の指示により、生活を制限され、希望を持つことさえも許されませんでした。一人の人間としてではなく、病者として生きることを余儀なくされてきました。皆さんにとってはあまりまえである教育を受ける

ことや、恋愛、結婚、社会人として自立すること等は、すべて否定されてきました。もっと身近なところでは、温かい食事を取ることさえ、難しいという現実さらさらされてきました。

難病の患者さん達や障害者の人達が、自立をして当たり前前の生活をするのが夢のまた夢であった一九七五年、ありのまま舎という団体が生まれました。山田寛之さん、山田秀人さん、現常務理事の山田富也さんや多くの人達が、自分達の置かれている状況を広く世の中の人達に知っても

らう為に、詩集の発行や雑誌「ありのまま舎」の創刊、映画「車椅子の青春」の製作等を始めました。一九七〇年代初頭からの地道な努力は、三笠宮寛仁親王殿下をはじめとする、多くの人々の理解や協力の輪により、ありのまま舎の基礎が作られてきました。そして、彼らの活動は一九八七年四月に身体障害者自立ホーム「仙台ありのまま舎」の開所につながりました。

病院の外へでて「人間らしく暮らしたい」という、私達にとってはごく当たり前のことを実現する為に、重度の障害を持つ人達が行った活動は、現在のありのまま舎の活動に引き継がれています。一九九四年難病ホスピスとして、身体障害者療護施設「太白ありのまま舎」は設立されました。重症の難病を抱

える患者さんは、生活の場が極めて限られており、その実態は悲惨な状況にあります。いかに重度の障害があっても、重症の難病を抱える患者さんであっても、人としていき、人として暮らせる社会こそが、ありのまま舎が求め続けてきた社会です。その実現に向けた第一歩であった「仙台ありのまま舎」の試みの中で、医療的ケアを必要とする重度の障害を持つ人や、重症の難病を抱える患者さんが安心して暮らせる設備と人的配置の必要性を実感し、身体障害者療護施設の機能を生かし、難病の人々でも最後までその人の人生を自分の意思と能力で、全うできる生活空間を設立するに至りました。地域の一員として施設を開放し、交流しながら少しでも在宅生活に近い環境を維持し、施設が地域

から孤立した存在ではなく、地域の一機能として活用することを目指しています。仙台ありのまま舎同様、キリスト教精神に則った運営が行われています。

私達の救い主であるイエス・キリストは、多くの障害者や重病の人達を癒しています。イエス・キリストは世の中から拒否されたり、疎まれたり、さげすまれていた人々に寄り添い、その人たちの価値を認めることで、神はこの世には何一つ必要ないものはお作りにはならないことを教えてくださっています。

学生の皆様も、東北学院の精神である「地の塩」「世の光」を社会の中で実践されますことを期待しております。



「神と人に仕える」
 社会福祉法人救世軍 社会事業団救護施設
 「救世軍自省館」指導員
 川音 幸夫

一・救世軍とは？
 社会鍋で有名。キリスト教の一つの団体。創立は一八六五年、イギリスでウィリアム・ブラスによって始められた。現在は百一の国と地域で活動。日本では一八九五年に山室重平が始めた。現在、日本の救世軍は、四九の小隊と、二つの病院、アルコール依存症者支援施設を含む一九の社会福祉施設で活動。

☆ 二・施設の紹介

- アルコール依存症総合専門施設 社会福祉法人「救世軍自省館」
- 名称変更：リハビリ施設からアルコール依存症総合専門施設へ
- 理由：利用者像の変化→アルコール依存症という単一の病気だけでなく、精神や、内部障がい者、認知症など、合併症の利用者の増加など

☆

三・アルコール依存症とは？

- 一般（普通）の酒飲みとアルコール依存症との違いは何か
- 見分け方：節酒ができるかどうか（例 二杯なら二杯で止められる）
- 特徴：わかっちゃいるけど止められないのがこの病気の特徴。アルコールだけではない。薬物ニコチン、パチンコ、買い物などはまりやすいもの、依存性のあるものすべてに共通。↓アデクション（嗜癖）としての位置づけ。

☆

四・アルコール依存症の治療は？

回復には何が有効か？

○自助グループ（当事者同士の集まり）が一番：日本では断酒会やAA（匿名断酒会）

- AA（アルコールホリクス・アノニマス）は、一九三五年にDrポブと証券仲買人ビルの二人によって始められたもので、自助グループの最初のもの。
- 治療・回復の三条件：やる気 正直になる、広い心（謙遜）
- AAの二二のステップ（回復のプログラム）紹介

☆

六・結び

聖書の御言：「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかりと立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦労が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずですよ。」（コリントの信徒への手紙第一・一五章五八節）

☆

五・救世軍の標語紹介

○「心は神に、手は人に」自省館のミッション・ステートメント

秋季特別 説教者紹介
 伝道礼拝

◆大坂 純先生

宮城県生まれ。一九七九年東北学院大学法学部法律学科卒業後、日本社会事業学校研究科入学卒業。一九八四年仙台市立病院医療福祉相談室勤務を経て社会福祉法人ありのまま舎理事就任。（本年四月から理事長）現在、ありのまま舎理事長職と並行し、仙台白百合女子大学人間学部総合福祉学科教授、他要職多数。

◆大坂先生には一〇月三日に多賀城、土樋（夜）の礼拝をご担当いただきました！

◆川音 幸夫先生

福島県生まれ。一九七三年東北学院大学経済学部経済学科卒業後、民間企業勤務を経て児童養護施設社会福祉法人「のぞみの家」勤務。一九八〇年立正大学文学部II部社会科学科に編入。卒業後、社会福祉法人救世軍社会事業団救護施設「救世軍自省館」勤務。指導員として現在に至る。

【川音先生には一〇月二日に泉一〇月三日に土樋（朝）の礼拝をご担当いただきました！】

サマー・カレッジ講演要旨

「リンネと信仰」



東北大学大学院文学研究科
准教授 鈴木道男

サマー・カレッジでは、西洋以外では唯一、江戸時代の日本に、西洋と同時期に博物学が開花していたことをお話させていただきますました。

西洋の博物学が今日に遺した大きな功績に、「二名法」があります。現在、全ての生物は、界・門・綱・目・科・属・種などからなる体系に従って分類され、そのうちの属名と種名の二つからなるラテン名を付されています。例えば人は *homo sapiens* であり、

「綱目」を解釈し、中国の薬用の自然物に我が国の自然物を当て嵌めてゆくという本草学的な作業の延長線上に成立しました。本草学とは、植物などの自然物を対象とする薬学です。動機こそ違いますが、自然物の網羅的な命名・記載を目指した点では同じです。そして何よりも、博

物の担い手たちは、集めて已まぬコレクションの精神を共有していたのです。西洋の博物学が今日に遺した大きな功績に、「二名法」があります。現在、全ての生物は、界・門・綱・目・科・属・種などからなる体系に従って分類され、そのうちの属名と種名の二つからなるラテン名を付されています。例えば人は *homo sapiens* であり、*homo* が属名、*sapiens* は種小名といわれます。学問的に人間という種を論じる場合、誰でもこの名を用います。同様に、マガンは *Anser Albifrons* で、モモンガは *Pteromys momonga* です。この方式を普及させたのがカール・フォン・リンネ（一七〇七〜一七七八）

というスウェーデン人でした。西洋博物学の最盛期が「リンネの時代」と呼ばれるほどの重要人物です。リンネは尽きることのない収集熱・分類熱をもって全生物の命名・体系化を試みました。そして「十二使徒」と呼ばれた弟子たちを世界中に派遣



洋博物学と対等の議論が成立していたのです。ツェンベリが桂川甫周や中川淳庵といった蘭学の碩学の名をヨーロッパに伝えるため、有名な大黒屋光太夫は、ロシアの学者キリル・ラクスマンから彼らの消息を尋ねられてもいます。ちなみにツェンベリは帰国後、ウプサラ大学のリンネの講座を襲っています。集めて已まぬコレクションの精神と申しましたが、リンネの場合には非常に個性的な特徴がありました。すなわち、彼には、地上の全ての創造物を記録し、数え上げ、神を讃えるという、「神の事務官」としての、実に敬虔な使命感があったのです。北欧は新教（福音ルーテル派）の世界です。リンネの家系も、父親をはじめ、牧師ばかりです。ところがこの使命感に支えられた収集癖が、自然物以外にも発揮されていたことはあまり知られていません。実はリンネには、「神罰」の蒐集もあったのです。悪事をはたらいた人に、後に天罰が下った事例の集積です。旧約聖書から同時代まで、そして

笑いを誘うものから深刻なものまで、よくもまあ、と妙な感動すら覚える代物です。リンネ自身、全身全霊で神の僕をつとめていたのです。文字通り『神罰』(Nemesis Divina) と題されたこの書は、息子に向かって書かれていたために秘書とされ、ようやく活字で出版されたのは、人類がはじめて月に立った年（一九六八）のことです。

し、自分の分類体系を地上の全ての生物に及ぼそうとしました。日本に派遣されたのは一番弟子のカール・ペーター・ツェンベリです。この人は日本の学者たちと有意義な博物学の議論を重ねています。当時の水準では、我が国の本草学的博物学も、西

リンネが植物の標本だけではなくて、いわば神意としての人間の運命の標本も集めていたことを知ると、神の摂理に対する探求欲こそが彼を突き動かしていた原動力であったことがよく理解できます。洋の東西を問わず、博物家の収集癖をみると、近寄り難い、鬼気迫るものを感じる場合があります。ところがリンネの場合は、どこにも「鬼」がおらず、かわりに神が見えるのです。リンネの分類法が、あつという間にヨーロッパを席卷していった背景の一つには、あるいはこうした事情もあったのかも知れません。

サマー・カレッジ講演要旨

「自然へのまなざし」

―絵本作家ビアトリクス・ポターの献身―



大学宗教主任 出村 みや子

宗教部主催のこの夏のサマーカレッジでは、「自然へのまなざし」をテーマとして人と自然との関わりを、江戸の鳥類図鑑を編纂した伊達藩主堀田正敦と、ピーターラビットの絵本シリーズの著者ビアトリクス・ポターという時代も場所も隔てた二人のナチュラルストの自然観察眼を通して、自然と人間との関係の問題に接近することを企画しました。両者はその正確な自然描写力が後世の高い評価を受けているばかりか、今日の自然保護運動に対しても大きな影響を及ぼしています。

私は今から二〇年程前に専門の教父学関係の学会で初めてイギリスを訪れ、オックスフォード

の本屋でたまたまポターの絵本に出会って以来すっかりピーターラビットのとりことなり、八年前にはかねてからの念願だった湖水地方を娘と一緒にたずねました。今では我が家にピーターとそっくりの茶色のウサギが飼われています。この絵本の魅力は何と言っても自然の観察眼に裏打ちされたリアリズムとファンタジーの融合、そして小さな子供が見て楽しめる大きさと値段へのポターのこだわりにあります。今回の講演では、ポターの自然保護活動の足跡を辿りながら、湖水地方の美しい風景や彼女の絵本作品に見られるナチュラルストとしてのポターの自然

界に対する深い理解、さらにはピーターラビットの冒険物語の背後に色濃く残るキリスト教の影響を紹介しました。ピーターラビットの絵本によって日本でも有名なビアトリクス・ポター（一八六六―一九四三年）は、ロンドンの弁護士の子に生まれています。その後ポターは学校には行かず、家庭教師に教育を受けるといふ孤独な少女時代を過ごします。毎年夏にスコットランドに避暑に行っていたポターは、一六歳のときに湖水地方で夏休みを過ごし、以来この土地が気に入って訪れるようになり、家庭教師の子どもの病気を慰めるために書いた絵手紙をきっかけに、ピーターラビットの物語が誕生。ポターは当初菌類の研究者を目指していましたが、その描写力はキノコ図鑑にも採用される程の本格的なもので、自然をリアルに描いた挿絵は湖水地方そのままの風景を再現しています。このノエル君は九歳でポリオのために片足が不自由になり、独身のまま後に牧師となって、女子精神障害者の施設で生涯働いた

たということです。その後湖水地方で知り合ったローンズリー牧師の勧めで絵本を出版することになりますが、彼は湖水地方の自然景観保護のためナショナル・トラストを創設した他、教育にも力を注ぎ、イギリスで初めて男女共学の学校を開くなど時代を先取りする人物でした。また詩人でもあり、ポターの創作活動を積極的に応援しました。ポターは数々の絵本がベストセラーになるや、その印税でヒルトップの農場を購入し、ナショナル・トラスト運動に大きく貢献。後半生は牧羊業に熱心に従事し、それ以降の三〇年間を湖水地方の自然保護に尽くし、遺言でナショナル・トラストに遺産を寄付しました。湖水地方は一六の湖と五〇〇の池が点在する国立公園で、その四分の一をナショナル・トラストが所有・管理しています。ポターの文章表現には聖書の欽定訳とシェイクスピアが決定的影響を及ぼしていることはよく知られていますが、ピーターの冒険物語には三人の姉妹、聖



2007.07.27 17:3

餐を暗示するブドウパン、キリストの荆冠を編んだとされる植物、受難に付き添うコマ鳥、十字架の案山子など、キリスト教の文化的伝統における受難・復活物語を暗示するシンボルがいろいろ含まれています。「詳しくは、益田朋幸著『ピーターラビットの謎―キリスト教図像学への招待』（東京書籍）をご参照下さい」。そもそもウサギはイースターの伝統に欠かせない動物ですから、病気の子どもを慰めるための物語の主人公が復活を象徴するウサギであることは実に意義深いと思うのです。

泉キャンパス



主任 教授 宗大 義之 永井

読書の秋といわれる季節になってきました。読むという言葉から受ける印象としては秋の夜長、一人静かに本を開いて読むとか、通学の行き帰り電車の中で読むとかのイメージがあります。しかし、いろんな言葉を調べてみるとラテン語のレクチオ、ギリシャ語のアナギノースコーなど古典語においては全て

声に出して読むという意味でした。現代ドイツ語でフォアレーズングという言葉は講義と訳される言葉ですが、これも講読がふさわしい訳語で教師が古典的書物を声に出して読み

解説していくスタイルです。活字を黙って黙読するという読書スタイルはむしろ後世（およそ12世紀以降）確

多賀城キャンパス



主任 教授 宗大 信 野村

暑かった夏も過ぎ去り、秋、そして冬への準備を始める時となりました。自然に恵まれた多賀城キャンパスの周囲は、季節の変化を良く映し出してくれます。今

人材になる人々が多いと思います。今まで、日本社会は経済の成長と産業の発展を優先して進めてきましたが、しかし今や人類の安定した平和と環境の維持が新たな課題として浮上っています。

すなわち、総合的な視野にたつて、良い未来を志向して進むことが求められています。

聖書は、いつの時代にも人間

各キャンパスのメッセージ

立された読み方のようです。古代にあってアウグスティヌスは、その師アンブロシウスが黙って本を読む姿を見て驚いたという話が伝わっているほどです。たまには私たちがじっくり声に出しながら本を読む経験もいかなと思います。

にとつて基本的に大切なものを示してくれまますから、聖書の教えに耳を傾けつつ、人間と世界、さらに未来により建設的な視点を求めたいと願います。この視点を大事にして、さらに新たな歩みをして下さい。

土樋キャンパス



主任 教授 宗大 博 北

いやあ、暑かったですね。これも地球温暖化のせいでしょうか。まだ夏なのに、大きな台風もいくつか来ました。どうも最近、異常気象が世界的規模で続いているようですが、人間による自然破壊がその要因の一つだという声をよく耳にします。

旧約聖書には、人間の罪悪が自然を荒廃させる、という考え方があります。人間が神から離反し、争いと流血の事態を起こした結果、地は早魃に喘ぎ、作物は実りを生じなくなり、動物も鳥も、そして海の魚までも

絶えてしまう、というのです。何か現代を象徴的に暗示しているような気がします。

ともあれ、やっと秋風が立ちました。実りの秋、収穫の秋です。先日、久しぶりで稲刈りに参加して来ました。大地を踏みしめて野良仕事をしていると、大地の「気」のようなものが伝わってきて、心身共に爽快になります。やはり人間は自然の一部で、被造物に過ぎないのだ、と実感しました。心と体のバランスに心がけて、勉学に励んでください。

The Power of Friendship



文学部 デビッド・N. マーチー

Do you have friends? Yes, you probably do. Indeed, most of the people reading this probably have many friends. Some of you, however, may have only a few close friends. Indeed, many of us know many people, but still have only a few close friends. There are many people, however, who do not have even one close friend. Have you ever wondered what that would be like? Have you ever wondered what it would be like everyday to walk to school alone, because no one wanted to walk to school with you, because no one wanted to be your friend? Have you wondered what it would be like to sit alone every day at lunch, because nobody else wanted to eat with you? Have you ever wondered what it would be like never to have anyone call you on the phone just for a friendly chat?

One of my favorite Bible stories is about Jesus' encounter with a man named Zacchaeus, a Jewish man who lived in ancient Jericho (Luke 19: 1-10). Zacchaeus had few, if any, friends, and there was one very good reason for this. Zacchaeus was a tax collector. He was hired by the Roman government to collect taxes from his own people, the Jews, who had lost their country and now lived under the domination of the Romans.

It was bad enough that Zacchaeus collected money from his fellow Jews and gave it to the Romans. But tax collectors at this time made additional money by collecting more money than the people owed in taxes and keeping the extra money for themselves. By doing this, Zacchaeus had become a rich man. You can see why most people did not want to be his friend!

One day, Jesus came to Jericho, and Zacchaeus wanted very much to see him. However, because a large crowd of people was following Jesus, Zacchaeus, a short man, was unable to see him. So Zacchaeus climbed a sycamore tree and waited for Jesus to walk by on the road below. Zacchaeus was very surprised when Jesus saw him up in the tree. But he was even more surprised when Jesus said he would come and visit Zacchaeus at his house that very day.

The Bible tells us that many people who saw this happen were angry that Jesus would befriend a person like Zacchaeus. But Jesus looked at Zacchaeus and he saw a person who needed a friend. Jesus became that friend, and Zacchaeus' life was changed forever. Because of his new friendship with Jesus, Zacchaeus promised

to give half of his belongings to the poor, and to return to those he had cheated, four times what he had taken from them. As Jesus said, salvation had come to Zacchaeus. And it all happened because Jesus made a friend.

Each of us probably knows someone who seems not to have many or even any friends. This week, make a friend of that person. You might well change his or her life, and he or she might well change yours!

クリスマス礼拝 の ご案内



★第19回 泉キャンパスクリスマス

12月7日(金) 18:30～ 泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者：日本基督教団 宮城野愛泉教会
國津 信一牧師

第二部

クリスマスコンサート

オルガン演奏、クリスマス・メドレー演奏、みんなで歌おう、聖歌隊合唱、キャンドルサービス、他

★大学クリスマス

泉キャンパス 12月12日(水) 14:30～

土樋キャンパス 12月12日(水) 18:00～

多賀城キャンパス 12月13日(木) 14:30～

説教者：東京神学大学准教授
小友 聡先生

オラトリオ「メサイア」合唱

★第58回 公開東北学院クリスマス

12月14日(金) 18:00～

土樋キャンパス礼拝堂

説教者：日本キリスト改革派教会花見川キリスト伝道所
潮田 祐牧師

オラトリオ「メサイア」合唱

編集後記

この号は秋の特別伝道礼拝の特集号です。お招きした講師の先生方はいずれも本学の卒業生で社会の第一

線で福祉関係の仕事をされ活躍しておられます。本学のキリスト教に基づく教育を根底に社会でがんばっておられる様子を伺うことができ、励まされる思いをし

ました。礼拝堂で直接話を聞いた皆さんはいかがだったでしょうか。

(NA)